

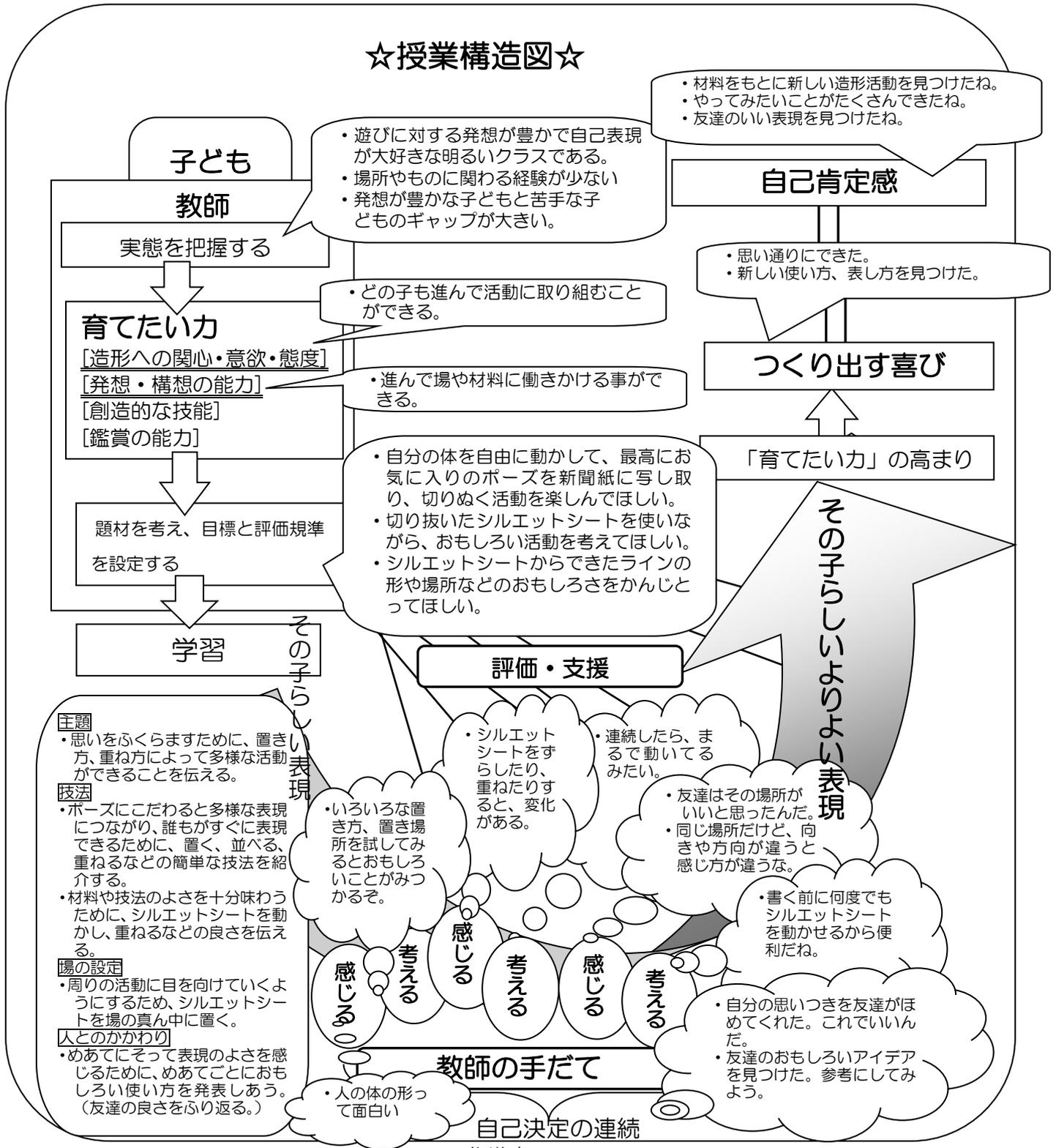
第4学年2組 図画工作科学習指導案

指導者 川崎市立向丘小学校

白石 裕之

1. 題材名 「The Silhouette Puzzle ～〇〇の瞬間～」
A表現（1）造形遊び 2時間扱い

2. 「その子らしいよりよい表現」につながる授業の構想



3. 活動場所 アリーナ

4. 題材について ～テーマにせまるために～

テーマ つくりだす喜びを実感できる授業をめざして

(1) 子どもたちの実態

4年2組は男子13名(内1名特別支援級と交流)、女子16名の29名である。4月に会ってから様々な造形活動と一緒に楽しんできた。4月「絵の具でゆめもよう」では、ドリッピング、スパッタリング、マーブリング、デカルコマニー、スタンピング、コラージュを体験し、絵の具を使った様々な表し方を学んだ。その作った作品の紙をさらに使って、どんなことが表せるか楽しんだ。

はじめてやることに、ドキドキしながらなかなか手が出せない。失敗を恐れていることが伝わってきたので、一人一人に声をかけ、認めることを大切にすると、「失敗なんてないんだ。」「どんな風になっても、大丈夫なんだ。」と分かり、最後まで楽しく活動できた。

5月の運動会では、「145周年の特別な記念に横断幕を作ろう。」と学年全員が参加して、一人一人の手を足跡に見立てて、過去から未来へつながっていく希望と明るい気持ちを表した。



6月「光とかげから生まれる形」では、

明るい場所で、身の回りにあるものを使って、いろいろな組み合わせや、光の当たり方で、かげの形が変わるのを楽しんだ。校庭の体育倉庫にあるものを並べたり、積んだり時間いっぱいまで楽しむ姿があった。一方、場所やものに自由に関わる経験の少なさを感じた。「どんどん並べたり、重ねたり

しよう。」の活動が始まったとき、全員が倉庫からなかなか出てこなかった。また、友達と同じものを持ってきたのだ。その後フープや三角コーンなどを持ってきて、色々な角度や重なりを試行錯誤し始めたが、より一層、材料や場所に働きかける経験を積む必要があると考えている。



(2) 題材と育てたい力

育てたい力：発想・構想の能力

そこで、豊かな発想をさらに伸ばして、つくることを思いきり楽しめる題材を設定した。材料である自分の体の影シートを組み合わせのおもしろさや場所との考えながら置いたり、並べたり貼ったりしていく。だれでもすぐにイメージを広げることができ、表現することの喜びを感じることができる。この経験が造形への関心・意欲・態度の高まりにつながっていくと考えている。

また、概念にとらわれず、進んで材料や場所に関わっていく姿を願っている。活動が進むと子ども同士の会話が促され、互いを認め合う場面が見られるようになると思う。なかまの見方や感じ方の良さに気づき、自分の思いがさらに広がっていく活動を通して、育てたい力、特に発想・構想の能力が高まっていくものと考えている。

(3) 自分で「感じる」「考える」ことを大切にしたい手立て

～「その子らしいよりよい表現」につなげるために～

材料

子どもたちは、見慣れた「かげ」が材料として出会うことを知らない。新聞紙に写し取ることで消えることもなく、自由に方向や角度、その一部を用いることが可能になる。組み合わせることで今まで考えた事のない、新しい発見がある。広い場所で、床一面がキャンパスになり、シルエットが広がっていく個の活動が、友達と関わることで、さらに意欲をかき立てられることにつながる。



人とのかわり

造形遊びでは、人とのかわりが重要な要素となる。子どもたちは、一人ではつくることができないシルエットシートの製作を通して、どんなポーズがいいのか、向きや角度などを考えていく、同時に切り取りやその後の組み合わせも「感じる・考える」ことを「見える化」することで、自分や友だちのよさを認め合い、思いがふくらみ、自分らしい表現につなげていくと考えている。

場の設定

天候に関係なく活動できる場所であり、ダイナミックに展開できる活動を保証するためにも、アリーナを活動場所を選んでいく。また、活動中に新しいシルエットシートが作りたくなる場合も考えられるので、アリーナの中を製作エリアと活動エリアに分けることにした。「感じる」「考える」ことが大切にされかつ、はさみを使用するので、安全面を考慮してエリアを分けることにしている。

授業開始前においてあるシルエットシートの位置もアリーナのほぼ中央に置くことにしている。中央にあることで、個人の活動場所から取に行く途中に、友達の作品を見たり、話したりしながらも、自分の中で「感じる」「考える」ことが活性化されることを期待している。

5. 題材のねらい

シルエットシートを使って、並べ方や置き方を工夫し、生まれる形を考えて楽しむ。

6. 題材の評価規準 ～ 4つの観点から育てたい力を考える ～

造形への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○シルエットシートを使ってやってみたいことを見つけ、活動を楽しもうとしている。	○シルエットシートを使いながら、おもしろい活動を考えている。	○シルエットシートを切りだしたり、並べ方を工夫したり、重ねたり、場所を選んだりしている。	○シルエットシートからできた形や場所などのおもしろさを感じ取っている。

7. 準備

[教師] 新聞紙、マジック、養生テープ、セロテープ、デジカメ

[子ども] 新聞紙、はさみ、のり

8. 指導と評価計画（2時間扱い）

	◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応	○教師のかかわり・手だて ◎「感じる」「考える」ことを大切に にした手だて	評価規準【 】と 評価方法（ ）
1 次 30 分	◇新聞紙を使って造形活動 を知ることを知る。 ◇新聞紙を広げ4枚をのり で貼り合わせ、1枚の大きな新聞紙をつくる。 ・張り合わせ方がよく分からない。	○事前に連絡して、十分な数の新聞紙を準備しておく。 ○新聞紙を広げた状態で4枚を貼り合わせ、1枚の大きな新聞紙にするので、広い場所を確保しておく。 ○事前に準備した、映像を見せる。	【関】材料・活動に興味をもち、活動への意欲を高めている。 (発言、表情)
自分だけの瞬間を見つけよう			
	◇大きな新聞紙に、自分の体をのせて、思いつくポーズをとり、ペアの子に協力してもらってシルエットをマジックでかく。 ・体に厚みがあるから難しいな。 ・体が大きくて全部入らない。 ◇ペアで協力して、描いたシルエットをはさみで切り取る。 ・細かい部分がうまく切り取れない	◎なるべく新聞紙に体が接する面積が多くなるようなポーズの方が面白い形になることを伝える。 ◎必ず体全部を入れる必要はないことを伝える。 ◎大きな体の人が新聞紙に入るために体を曲げるなどポーズに工夫すると面白い形が発見できることを伝える。 ○あまり細かく切ることよりも、体の形が分かるように捉えればよいことを伝える。	【発】おもしろいポーズを考えて、新聞紙に写し取っている。 (発言、つぶやき) 【創】シルエットシートを切りだしたり、並べ方を工夫したり、重ねたり、場所を選んだりしている。 (発言、シルエットシート)

<p>2 次 60 分 本 時</p>	<p>◇シルエットシートを使って造形活動を知ることを知る。</p> <p>◇めあてや表現方法を確認する。</p> <p>◇「図工のめあて」を声に出して確認する。</p>	<p>○思いをふくらますために、置き方、貼り方によって多様な活動ができることを伝える。</p> <p>○活動場所（アリーナ・キャットウォーク）を確認する。</p> <p>◎誰もがすぐに表現することができるために、置く・並べる・はる等、簡単な技法を紹介する。</p> <p>◎材料や技法のよさを十分感じるために、色をぬる、切り刻むことはしないという技法を制限する。</p> <p>○めあてシートを提示し、本時のめあてを全員で読み上げる。</p>	<p>【関】材料・活動に興味をもち、活動への意欲を高めている。 (発言、表情)</p> <p>【発】シルエットシートを見て、おもしろい使い方や置く場所を考えている。 (発言、つぶやき)</p>
<p>シルエットシートを使って、並べ方や置き方を工夫し、生まれる形を大発見して楽しもう。</p>			
	<p>◇シルエットシートを使って活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙に好きなポーズをとり、水性ペンでシルエットラインを引いている。 ・友達と協力しながら、新聞紙をはさみで切りぬき、シルエットシートをつくっている。 ・シルエットシートをアリーナのキャンバスに広げている。 <p>◇「図工のめあて」にそって今日の活動の振り返りをする。</p> <p>◇学習カードに今日の活動の振り返りを記入する。</p>	<p>○思いついたらすぐに試せるように、新聞紙が多数あることを知らせる。</p> <p>◎周りの活動に目を向けていくようにするため、シルエットシートを場の真ん中に置く。</p> <p>◎自分の頑張ったことを書くとともに、友達の頑張りのや素敵な考えを見つけたことを書くことを伝える。</p>	<p>【発】シートを使って、おもしろい使い方や置き方を考えている。 (活動の様子)</p> <p>【関】仲間と協力して、シルエットシートを使って活動を楽しもうとしている。(活動の様子)</p> <p>【創】床だけでなく、それ以外の場所と関わりを選ぼうとしている。 (活動の様子)</p> <p>【鑑】友達の作品に興味をもち、自分の作品と比べながら聞いている(発言)</p>

9. 本時の活動（2/2時間 60分）

（1）本時のねらい

○シルエットシートを使って、並べ方や置き方を工夫し、生まれる形を考えている。

（2）本時の展開

<p>◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応</p>	<p>○教師のかかわり・手だて ◎「感じる」「考える」ことを大切にした手だて</p>	<p>評価規準【 】と評価方法（ ）</p>
<p>◇シルエットシートを使って造形活動を知ることを知る。</p> <p>◇めあてや表現方法を確認する。</p> <p>◇「図工のめあて」を声に出して確認する。</p>	<p>○思いをふくらますために、置き方、貼り方によって多様な活動ができることを伝える。</p> <p>○活動場所(アリーナ・キャットウォーク)を確認する。</p> <p>◎置く・並べる・はる等、簡単な技法が大切であることに気付けるし、めあてにつなげる。</p> <p>◎材料や技法のよさを十分感じるために、色をぬる、切り刻むことはしないというように技法を制限する。</p> <p>○めあてシートを提示し、本時のめあてを全員で読み上げる</p>	<p>【関】材料・活動に興味をもち、活動への意欲を高めている。 (発言、表情)</p> <p>【発】シルエットシートを見て、おもしろい使い方や置く場所を考えている。 (発言、つぶやき)</p>
<p>シルエットシートを使って、並べ方や置き方を工夫し、生まれる形を大発見して楽しもう。</p>		
<p>◇シルエットシートを使って活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙に好きなポーズをとり、水性ペンでシルエットラインを引いている。 ・友達と協力しながら、新聞紙をはさみで切りぬき、シルエットシートをつくっている。 ・シルエットシートをアリーナの床全体をキャンバスにして置いている。 ・壁に貼りつけたいけど、困っている。 <p>◇「図工のめあて」にそって今日の活動の振り返りをする。</p> <p>◇学習カードに今日の活動の振り返りを記入する。</p>	<p>○思いついたらすぐに試せるように、新聞紙が多数あることを知らせる。</p> <p>◎周りの活動に目を向けていくようにするため、シルエットシートを場の真ん中に置く。</p> <p>○自由において良いこと。友達と重ねたり、つなげたりして良いことを知らせる。</p> <p>○壁面に貼りつけたいときは、養生テープを用いても良いことを伝える。</p>	<p>【発】シートを使って、おもしろい使い方や置き方を考えている。 (活動の様子)</p> <p>【関】仲間と協力して、シルエットシートを使って活動を楽しもうとしている。 (活動の様子)</p> <p>【鑑】友達の作品に興味をもち、自分の作品と比べながら聞いている。 (発言)</p>

10. 振り返り.

○子どもたちの姿で考えていく成果

出会った頃は、はじめてやることに、ドキドキしながらなかなか手が出せない。失敗を恐れていることが伝わってきた。初めてやることに対して、「失敗したくない。」「どうすれば上手くできるか。」という根拠のない心配が目立つ子どもたちであった。

この題材を通して、「失敗はないんだ。」「約束を守れば、自由にできるんだ。」という事を感じ取れた。自分が気に入った形（自らのシルエットや友だちのシルエット）を縦横無尽に組み合わせ、楽しめていた。

1次では、普段気にも留めていない自分の影を題材にすることを知る。自分のシルエットを新聞紙に写し取り、切り抜くことで、自分では見れない楽しいシルエットが誕生する。シルエットのおもしろさを十分味わえた。

2次では、大量のシルエットを見ながら、縦に横に並べ、重ね、つなぎ合わせていった。アリーナという十分な空間をのびのびと使



エットが広がっていった。活動を通して、常に自分の思いをもち、友達の動きを見ながら会話をし、友達との関わりを通し、楽しんで活動が進められた。ステージから反対側の扉までつないで、作りだしたシルエットや面白い形を並べるうちに、クワガタのような形も生まれてきた。

○子どもたちの姿で考えていく課題

楽しくて1次のシルエットをつくりだす活動を止められない子どもがいた。2次に入ってから、必要があれば新しいシルエットを作り出すことを認めていた。しかし、楽しさのあまり終了近くまで作っていた子どもたちがいた。どんなに楽しい活動でも、本時のねらいからそれしていると判断されれば、修正の声をかけていく必要がある。

キャットウォークの利用がもう少し柔軟に活用できたと考えられる。アリーナという広い空間で、子どもの目の高さで見えるものと、キャットウォークの上から見下ろすのでは、見える空間が違う。本時では最後の段階で鑑賞時間を設定し、キャットウォークに子どもたちを上げたが、本来はシルエットを移動させたり、並べる段階で自由に見ながら、楽しめるようにする方が良かったと考える。

造形遊びとしての活動は、つくりたいものをつくる活動ではない。しかしながら、クワガタの形を作り出した子どもたちは、途中までシルエットのおもしろさを味わっていた。途中でクワガタに見えることに気付くと、意識的につくりたいものをつくってしまった。造形遊びからつくりたいものをつくるに変わっていったことが、今後の課題となっていく